

社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)レビューシート

団体名: 認定NPO法人 きょうとグリーンファンド

訪問調査日: 2011年9月27日(火)

評価大項目(分類)	評価中項目	絶対評価コメント	達成率
I. 組織ミッション(社会的使命)と事業の推進	[1]組織ミッション(社会的使命)の確立	「省エネ・節電と自然エネルギーの普及」を目的とした組織ミッションは定款をはじめ、ホームページ、リーフレット、10周年記念のリーフレット、パンフレット、「ぐりふあんletter」、年次報告書等にも平易な表現で明示されている。非営利・公益事業の推進は2008年5月1日の認定NPO法人としての認定から明確で、直近の年次報告書や財務諸表も広く公開されている。	21/24 達成率 88%
	[2]組織ミッションと事業の策定	中期的ビジョンは、補助金の有無に左右される事業計画となるため策定は難しいが、現在の基幹事業である「おひさま発電所」の中長期的なビジョンは、理事会で課題共有されている。単年度事業計画に関しては、多様なメンバーを巻き込んで積極的に策定されている状況が、協力関係にある「京のアジェンダ21フォーラム」等との研究会の記録等から確認することができる。	
II. 組織と経営管理	[1]意志決定機関とガバナンス	定款上にも理事会の役割・ルールが明文化され、2か月に一度の理事会開催などは議事録等から確認できる。また、運営上必要となるコンプライアンスの把握のため、自主研修会や外部研修会への参加状況を聞き取ることができ、アドボカシー活動の成果も確認することができる。定期総会や理事会において、法人の経営環境は適切に把握・管理されており、国税庁の調査による認定NPOの要件を満たすことによって、外部監査の実施と同様にみとることが出来る。	33/40 達成率 83%
	[2]適切な財務計画と執行・管理	「発電寄付シュミレーション」や「きょうとグリーンファンドおひさま発電所設置一覧表」により、一定の経営計画は確認できるが、中長期的な視点からの計画策定が困難な状況であるが、会費・寄付・補助金等の多様な財源の確保がなされている。認定NPOであることから、税務処理は適切・適宜に行われている状況が確認できる。	
	[3]職員と労働環境	非常勤職員のみであることから、「人件費・賃金・謝金等」の簡易な規定が整備されている。事務局の仕事の掌握表を作成しており、週1回の事務局会議等で運用規程の見直しが定期的に行われていることが確認できる。人材育成に関して文書化したものは無いが、OJTや年に数回、組織負担の研修を行っている他、ブログで随時その様子等を報告するなどスキルアップに努めている。	
III. 事務局の執行体制と管理	[1]組織・事務局体制の確立	事務局機能は明確であり、決められた時間帯において、電話・来所対応が可能になっている。登記事項の更新、所轄庁への報告等、必要な手続行われており、認定NPO法人の認定書類等を含め、全ての書類が事務局に保管されている状況が確認できる。	31/31 達成率 100%
	[2]会計全般	明文化された「経理処理規則」出納帳のファイルに貼付されており、適切に管理・運用がなされている。経理担当者は税理士資格保有者が担当しており、一般的に適切な管理が行われていることが確認できる。	
	[3]事業を推進するための体制やルール	事業計画に基づき、明確な組織のルールに沿って事業を推進し、さらに発展的な事業として公立中学のチャレンジ体験等も実施されている。事業実施の成果は、他団体との会議や勉強会等で広く共有されている。「おひさま発電所」設置団の保護者・子どもたちの意見を聞き、拡大理事会等を開催し、外部のファシリテーターから環境教育についての事業評価を行うなど、第三者評価の視点も大切にしている。	
IV. 社会資源の活用	[1]社会資源(企業/行政/市民など)の連携と活用	同セクター内や企業セクター及び政府セクターとの共同は顕著である。特に独立行政法人科学技術振興機構等の研究機関等に協働研究者としての参加をするなど、高いレベルでの実績を持つことが確認できる。ボランティアについては、単発イベントのみの受け入れを行っている。	14/16 達成率 88%
V. 情報の公開と社会的信頼	[1]情報の公開	組織・事業情報はホームページやパンフレット、ニュースレター等で公開されている。ストック・フロー情報もホームページ内のブログで随時適切に更新されている。寄付者には、お礼状とともに、プロジェクトの報告パンフレットの送付など、確実な情報提供が行われている。	18/18 達成率 100%
	[2]第三者による評価	2008年に国税庁より認定NPO法人として、認定され、2010年に再度認定されている他、新エネルギー等非常利活動促進事業費補助金など多岐にわたる助成金の給付を受け、複数のメディアにも掲載されている。、京都オムロン地域協力基金「第22回ヒューマンかざぐるま賞」を受賞したことをうけ、NHKの全国ネット「おはよう日本」で三回にわたり取り上げられた。	
VI. 組織のリスクマネジメントと社会的責任の追求	[1]組織のリスクマネジメント	書類の保管、個人情報保護規程等、取り扱いには一定留意しているが、書類保管場所の鍵設置や重要なデータ等の管理等に課題が残る。現在、個人情報保護の規程及び書類の保管および破棄規程等が整備されいないが、今後への課題認識はあり、改善が期待できる。	8/16 達成率 50%
	[2]組織の社会的責任の追求	京都府・京都市との連携も見受けられ、環境系他団体とは研究活動やアドボカシー活動が顕著に行われている。また、環境の持続性の観点から環境に配慮する取り組みを行っている。	
【相対評価(セルフレビュー)／総括コメント】			125/145 総合達成率 86%
<p>当法人は、持続可能な社会の実現にむけて、常に市民活動としてのスタンスを意識して10年間にわたり継続して活動し、成果をあげています。他団体、メディアなどからも注目され、高い評価を受けています。1つのNPO法人が15の発電所を設置し、継続してさまざまなプログラムの環境学習を行っている例はなく、モデルとして他県にも波及しています。特に幼児へのアプローチを重視しているのは、幼稚園や保育園での「おひさま発電所」の設置を通じて、保護者・家庭・地域に環境面での意識が変化し、環境教育としての効果が期待できるからです。</p> <p>また、2008年に国税庁より認定NPO法人として認定されたこともあり、公益的な活動としての評価は高く、納税義務など法令遵守を常に心がけています。事務局は少人数のスタッフなので、情報なども共有しやすく、事務局会議も活発に行われています。</p> <p>各補助金の廃止にともない、今後事業の継続が厳しくなっていますが、これまでの手法を改善しながら、今後も活動を続けていきたいと考えています。持続可能な社会を次の世代に引き継ぐためには、市民自らが地域での具体的な活動を通して地域社会を変えていく力を発揮させることが求められています。きょうとグリーンファンドの活動はその一環となり得るのではないかと考えています。</p> <p>本法人は「省エネ型の社会をめざし、自然エネルギーを拓いていくための活動を継続して取り組まれており、特に「おひさま発電所」を幼稚園・保育園に設置する独自の活動が社会からも高い評価を受けていることが見受けられます。設立10周年を記念して作成されたリーフレット等からも、法人としての説明責任や情報開示などを高い意識で発信されています。また、認定NPOとして2008年に認定され、事業的な公益性に加え、非常勤職員とボランティアでの事務局を無駄なく機能させ、会計・経理処理も明確なルールに基づき処理されています。活発な他団体との共同研究や理事会・事務局会議等の議論から導かれた事業計画を元に確実に計画を遂行されており、組織の意思決定やガバナンスの体制もしっかりとした基盤が構築されています。書類の保存、書類の破棄・保存規程の整備、個人情報に関する取り扱い等、組織のリスクマネジメントに課題は見られるものの、今後の検討課題としてあげられており、確実に改善していく姿勢が見られますので、本社会的認証システム－第三者認証(ステップ3)において認証しました。</p>			